

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

マクロコズム 2000.7

◎特集 事務局長研修(若手研修)



vol. 35

(財)青少年国際交流推進センター

繋げよう! 全国の若手のパワーを!!

第1回 1998年8月29日~30日

酒井会長就任初年度の新しい試みとして、若手育成のために事務局長研修が実施されました。

◀ 決意も新たに開会式であいさつする酒井会長



▲ ジョルダン大使館から一等書記官をお招きしての講演会



▼ 懇親会では、年代を越えて楽しい時間を分かち合いました



▲ 3つの分科会で特に評価が高かった「会議運営の基本」
講師は森田副会長



◀ 評価会では、この研修の開催を喜ぶとともに今後一層のプログラムの充実を望む真剣な意見が数多くだされました

第2回 1999年6月13日～14日

この年は、昼食会から始まるというリラックスできる導入を試してみました
でも、皆すぐに話しかけられる人ばかり
「それほど気を使わなくてもよかったかな？」
というのが、実行委員会での後日談



▲ 毎年好評なのが、椿副会長の「オリエンテーションの組み立て方」

中野幹事の「組織運営について」は資金作りの含めて貴重な知識

▼ 若手に組織作りのノウハウを教えてくれる大切な機会です



参加者全員集合！

▼ より楽しい活動とより力強いネットワークを作ろう！



事務局長研修 3年間を振り返って

第3回 2000年6月3日～4日



▲ 島根県国際交流青友会の活動事例発表をする小塚副会長



▲ 経験豊かな先輩の体験談を聞く貴重な時間

▼ 分科会「自主事業について」でのシュミレーション



▶ 懇親会で活動への思いを徹底して語り合いました



小学校でのクラブ活動指導ボランティア報告

中山めぐみ(第11回「世界青年の船」参加青年)
 山中 茂(第16回「日本・中国青年親善交流」
 参加青年)

〈きっかけ〉

昨年度1年間、高知県青年国際交流機構では高知市立一宮東小学校において英語、そして中国語を教えるという機会をもつことができました。きっかけは会員の前田正也さん(第14回「青年の船」)がPTA会長に就任したことからです。校長先生から、授業としての「クラブ活動」について何か新しい特色のある活動はないかと相談を受け、前田さんの方から提案し、学校側にも快く受け入れられて実現しました。時間帯は木曜日の6時限目。正規のクラブ活動の一環として「国際クラブ」がスタートすることになりました。

〈ねらい〉

各都道府県IYEOでは、社会的に影響のある活動を組み立てるには難しい部分があります。1回毎で区切りがつけられる交流活動やイベントを実施することは可能ですが、継続的活動は負担が大きいのです。しかしながら今回のような「地方

に開かれた学校づくり」に取り組んでいる小学校に国際クラブの創設を提案するとともに、ボランティアスタッフとして同校のクラブ活動に参加することは、私たちならではの役割と意義があると考えました。言語を発したり習ったりすることは、交流における便利なツールに親しむということです。また、高知県青年国際交流機構のメンバーが入って教えるということは、海外派遣事



▲ 中国語の教室にて

主 要 内 容

小学校でのクラブ活動ボランティア報告5~7	SSEAYP INTERNATIONAL エッセイコンテスト12~15
「中国スタディツアー」をステップとして 日中交流をより確かなものに8~10	平成12年度事務局長研修16
総務庁青年国際交流事業PR活動.....11	都道府県会長一覧17
	インフォメーション18~21

〈表紙の説明〉

兵庫県青年国際交流機構
 [オーストラリアとの絵画交流]
 神戸市立岩岡小学校から贈られた絵を嬉しそうに展示する
 リスベン第8小学校の男子生徒

業での貴重な経験を直接子供たちに伝える機会がもてるということでもあります。クラブ活動での私たちとの交流を、子供たちの世界に対する好奇心の育成と異文化理解に役立ててもらおうこと、ボランティア活動の意義と尊さを知ってもらうことは大きなねらいでした。

〈内容・効果〉

クラブ活動に集まったのは、小学校4～6年生約20名の子供たち。中国語の場合は全員殆ど知識のない状態でスタートし、中国の「先生は最も尊敬すべき」との考えに沿ってきちんと教室の椅子について教える形式を当初とりました。英語の場合は個人差が大きいことから、まず日常生活でふれる機会の多い単語を練習し、それからゲームに発展させ、皆が楽しんで英語に慣れ知識が定着していくよう工夫してみました。単語の練習をしている間は、簡単すぎてつまらなさそうな子から、よく解らずに戸惑っている子まで色々な表情がみとれます。それがゲームになり英語を意識せずに遊んでいると、急に生き生きとしてくるのが伝わってきました。ゲームで使う英語が解らないときでも、すぐ近くの友達が教えたりして、ゲームのルール以外では自分たち自身で自由に動いている場面もみられました。

また、中国語の時には現代中国事情や中国文化圏のエピソードを解りやすく説明したり、国際社会でのルールや道徳の話をおりませたりするなど、楽しく明るい内容にするよう心がけました。子供たちの反応は、中国での体験談や耳慣れない発音が面白かったらしく、大変興味をもって来て、発音も顔を重ねることに上達し、みんなよくついてきてくれたと感心することも多くありました。

英語では「世界青年の船」の参加経験を活かして、船上や寄港地での国際交流体験の話をしました。こちらとしては子供たちに世界の国々をもっと身近に感じてほしい、という願いがあったのですが、子供たちからの質問も多く、こういったことをきっかけに興味を深めていってくれたら良いな、と感じました。

クラブ活動でやった英語についてアンケートをとってあります。それによると、英語が楽しかった(19名中14名)と答えた理由として、10名以上がゲームの楽しさを挙げています。学期末のアンケートでは、今まで英語をやってみて難しかったと感じた子は11名いましたが(ふつう7名、簡単だった1名、計19名)、英語が好きになったと答えた子が12名(ふつう7名、嫌いになった0名、計19名)いました。英語を難しいと感じながらも、好きになった子が多かったことは、これからの課題とこちらの願いがある程度達成されたことを示していると思います。これからやってみたいことは?という質問のなかでは、外国の人と話したり遊んだりしてみたいといった意見もみられました。

▼ 英語の教室にて



こういった子供たちに対する効果もさることながら、学校側も校外からボランティアスタッフを招き入れて、子供たちの国際理解を進めるクラブ活動を全国に先駆けて取り入れたことにより、新聞の全国紙で紹介されたり、県内で優れた教育指導をした小学校に贈られる坂本教育賞を受賞したりするなどの成果をあげることができました。

〈感想〉

子供たちは、ローマ字を学校で習っていない学年の子、思春期（反抗期？）に入った子、海外旅行によく行く子など様々で、クラブの時間ごとに全体の雰囲気も子供の体調も違っているので、計画していた通りに進んだことはありません。毎回次の課題が出てきて、これでいいのかな、あしたらどうなるかなと試行錯誤の連続でした。子供たちの言葉や外国の事情に対する反応は、大人が考えているよりもずっと素直で素早いものがあり、手を抜いた内容にはできないと感じました。けれども、ただ面白いだけでなくメリハリのきいた内容にしていけば、子供たちはきちんとついてきます。子供たちの反応にどのように対応していくかという自分の力量が試されているように感じることもありましたが、逆に子供たちに助けられ、教えられたことも多く充実した時間だったといえます。この国際クラブが契機となって外国や世界のことに関心と好奇心をもってくれる子供が一人でも多くできてくれて、世界の中に日本があることを理解してくれれば幸いです。将来世界を舞台に活躍する人材となって地域や国をリードし、世界平和の基礎をともにつくっていくこれからの子供たちのために、今後もこのクラブが続いていくことを願い、できることはしてい



▲ 楽しい授業の展開をめざして

たいと思っています。

〈まとめ・課題〉

学校週5日制や総合的学習時間導入への動き等が聞かれる昨今、教育現場では様々な変化が求められている状況なのではないでしょうか。そういった点からいえば（もちろん土佐人特有の進取の気性も手伝って）、今回のような活動が比較的受け入れられやすい時期ではあるのかもしれませんが、しかし、小学校というひとつの地域社会と結びつき、一年間継続的に語学や国際交流といったことを通して子供たちとふれあうという経験は、未だかつてなかったことで、高知県青年国際交流機構にとって大変貴重な機会だったと思います。時間条件のごく限られた会員だけに負担がかかりすぎ、協力してくれるスタッフの確保が困難であるという大きな課題はありますが、今年度も継続して行っていく予定です。今後はクラブ活動以外にも子供たちと私たちが交流できる場所や時間をつくっていくことが、大切な課題になってくると考えています。

山形県 IYEO では、総務庁の「日本・中国青年親善交流」事業の地方プログラムを受入れがきっかけとなり、中国との交流が始まりました。そしてついに IYEO 初の「中国スタディツアー」という形に発展し、中華全国青年連合会に受入れをしていただきました。その後も、地域で中国人の方との新たな交流が始まるなど、理想的な発展を遂げています。

「中国スタディツアー」をステップとして 日中交流をより確かなものに

山形県青年国際交流機構会長
佐藤 恵一

◆であい

一昨年秋の第 20 回「日本・中国青年親善交流」事業「中国青年招へい」の地方旅行として 40 名の中国青年が山形県に 4 日間滞在することになった。当機構がそのプログラムを企画、地域づくりに熱心な関地区での体験交流と懇談の場を設定した。中国青年と関地区の方々と一緒に、「最上川源流そば」の手打ちを体験し、食し、子どもからお年寄りまで国際交流を楽しんだ。そんな交流が、中国青年の印象に残り「ぜひ北京で再会を」という、中国青年の董さんからの岡崎分館長に対する言葉になったのである。

◆実現に向けて

その後、関地区でも中国スタディツアー実現に向けての話が盛り上がり、当機構に要請があった。このようなケースの中国スタディツアーは、本県でも初めてだったので日本青年国際交流機構を窓口中国側（中華全国青年連合会（以下全青連）や中国青年旅行社）との具体的な話を進めていくこととした。

初めてということもあって、2 月頃に本部に相談し、実施要綱づくりを行った。しかし、ツアーをどこに依頼するのか（最終的に中国滞在中は中

国青年旅行社で、航空券等は国内業者に依頼。）等決定していない状況ではあったが、関地区からの要請もありとりあえず 3 月の公民館だよりで募集を開始した。最終的に、団員として、若干人生経験豊富な方々が多かったが岡崎団長、車秘書長はじめ 19 名の派遣団が決定した。4 月下旬には第 1 回の事前研修会を行った。その後、花笠踊り・中国語・白酒（56 度もある中国の酒）での乾杯の練習、お土産・交換作品等の準備など 4 回の研修をこなした。そして、出発の 6 月 25 日を迎えた。

▼ 天安門広場にて



◆いざ中国へ

それぞれの想いを胸に、成田空港を出発。夕刻だというのに気温 39℃の暑さの中、北京空港に無事到着。5日間の北京での交流がはじまった。以下中国滞在中の様子は、交流に関するところだけ記してみたい。

○農場視察及び農家訪問（北京市海淀区四季青郷人民政府）

超先生より四季青郷人民政府の概要の説明を受ける。食糧自給・農作物の輸出入の問題等質疑があった。ここでは、群馬県との研修生の交換をしているとのことであり、水耕栽培や有機栽培などおこなっている。さくらんぼも有名とのこと。皆、驚き。

その後、実験農場と民家を見せていただく。この視察については、有機無農薬栽培専門農家の団員の希望により実現した。

○全青連及び既参加青年との座談会、夕食会

全青連の会議室で倪全青連国際部長ほか9名の中国側参加者と中国の青少年問題、経済問題そして嫁問題について相互に懇談する。その後、王国際部副部長ほかみんなで懇親会。IYEO本部からのメッセージを渡す。再会を喜び、盃をかたむけながら花笠踊りで盛り上がる。参加者の浴衣が座談会・夕食会を盛り上げた。関地区で再会の約束をした董さんも仕事の出張を延期してくれて、わざわざ参加してくれた。夜遅くまで、盛り上がったのは言うまでもない。座談会には、天津に留学中の19回派遣団員辻さんも駆け付けてくれた。

○全青連表敬訪問

湯副秘書長を表敬。中国の概要及び青少年活動について歓談。今回のツアー実施受入に対してお礼を申し上げる。協賛いただいた、観光協会・笹

野民芸館からの笹野一刀彫りを贈呈する。

○北京第二実験小学校参観

関小学校全児童の作品を贈呈し、交換として児童の書道と墨絵の作品をいただく。帰国後作品展示会を開催予定。学校を案内していただき、書道・絵画・音楽の授業を参観する。音楽の教室では、四季の歌や蛍の光を一緒に歌う。自分は、2回目の訪問だったが、児童の授業態度や先生の指導などから教育の一貫性を感じた。ただ、児童が全員一人っ子であるという現実も忘れてはならない。

参加者一人ひとりが、多くの収穫を得た北京での5日間であったことだろう。



▲ 四季の歌を披露

◆帰途のバス中で

大きなアクシデントもなく、無事ツアーを終えることができた。参加された方々の感想を聞きながら、今回のツアーの成功を確信した。普通の観光では体験できない真の交流と素顔の北京。しかし、それは中国という大国のほんの一握りにすぎない。真の中国の素顔を小学校の児童にそして地区の方々に伝えたい。そんな想いとともには今度は、関と同じ中国の東北地方の町に行こう。また、関地区に中国の方々を招へいしよう。などなど、想いが参加者につのる。

◆事後活動として

関小学校で児童を対象にしての報告会や作品展示会、地区文化祭での写真や作品展示会、地区の方に報告会などなど、事後研修会も2回ほど開催し、貴重な体験を伝えてきた。

そのなかで、新たな交流に芽が出始めてきた。それは、今回秘書長をお願いした車さん（米沢在住の中国籍の家族で親子3人で滞在中）との交流の中から、関地区運動会のイベントへの中国の方の参加交流などこの出会いをきっかけに広がりを見せたというだ。そして、今年は、日本・中国青年親善交流事業「中国青年招へい」の地方旅行が決まり、受入れを通じて交流を進める予定でいる。来年には、また第2弾の「中国スタディツアー」を企画したいと話が進んでいるところだ。ぜひ、同じ環境の東北地方の農業都市へ。車さんの故郷が吉林省で父が学校の先生ということで、プログラムもいろいろアレンジできると考えている。

▼ 北京第二実験小学校前にて



◆最後に

地方旅行の受入れから、今回のスタディツアーに発展するとは自分自身考えていなかった。しかし、交流事業が心と心のつながりになればなるほど相互交流が可能になるのかもしれない。

ぜひ、この交流を地域づくりそして国際交流の観点からも続けていきたいと思っている。そして、自分のためにも。

山形県青年国際交流機構の「中国スタディツアー」日程

月 日	内 容
6月25日(金)	成田発 北京着 オリエンテーション
6月26日(土)	北京四季青郷での農家視察及び懇談 万里の長城と十三陵を視察
6月27日(日)	天壇公園、天安門城楼及び古宮博物院の見学 中華全国青年連合会及び既参加青年との交流会
6月28日(月)	中華全国青年連合会表敬訪問 北京第二実験小学校への訪問及び交歓 自由行動
6月29日(火)	北京発 成田着



総務庁青年国際交流事業PR活動

田端 清志

(第12回「世界青年の船」参加青年)

平成12年3月9日(木)、NHK長崎放送局にて、平日の午後5時から1時間放映されている若者向け番組「西坂青春一番地」に生出演し、総務庁が行う青年国際交流事業のPR活動を行った。

毎年、総務庁から県経由で各市町村の教育委員会へ事業周知を行っているが、昨年度は県内での応募者が落ち込んだこともあり、今回は「応募者を待つより、一步前に出て、こちらから事業の啓発をしよう」ということで、長崎県IYEOとしては初めてのテレビを通してのPR活動となった。

今回出演したのは、昨年度「日本・中国青年親善交流」事業に参加した竹井亜紀さんと、第12回「世界青年の船」に参加した私の二人で、視聴者にこの事業をより印象づけるため、竹井さんはチャイナドレスで、私はアラブ服を着て出演した。もちろん、それらはそれぞれの事業に参加した時に購入したものである。生放送の中で私達に与えられた時間は3分間。ディレクターから番組の構成上台本を読むような感じにはしたくないという要請があり、キャスターとの対話形式でPRすることとなった。私達の出番は番組の終了直前。長い待ち時間は私を過度に刺激し、戸惑いと緊張感を身にまとった状態での出演となったが、番組のキャスターの助けを借り、写真を用いて私達の体験談を織り交ぜながら、IYEOがどのような団体であるか、総務庁の青年国際交流事業にはどのよ



▲ NHK長崎放送局にて(右側竹井さん、左筆者)

うなものがあるのかをなんとかPRすることができた。

3分間という短い時間であったが、長崎県で総務庁の今年度事業への参加青年の募集受付が始まる1日前にこれまでとは違った新しい形でPR活動ができたことは大きな成果であったと思う。また、これからも、いろいろな形で、国際交流事業やIYEOのPR活動に取り組んでいければと思う。

ちなみに、今年度は昨年度をはるかに上回る応募者が集まったということで、このPR活動の成果かどうかは定かでないが、今回出演させていただいた私にはこの上ない朗報である。

「東南アジア青年の船」25周年記念エッセイコンテスト

平成10年の「東南アジア青年の船」の25周年を記念して、SSEAYP Internationalでは「21世紀のアジアのリーダーシップ」を共通テーマに、エッセイコンテストを行いました。IYEOでは、成年の部(大学生及び30歳までの青年)と少年の部(中学生・高校生)を設け、全国IYEOから応募を募りました。成年の部、少年の部ともに多数の応募があり、そ

れぞれの部門で優秀者各1名と佳作を数点選出しました。

平成11年3月下旬には、IYEOは各部門の優秀者合計2名に対し、アジアに対して更なる見識を深めてもらうことを目的に「東南アジア青年の船」フィリピン同窓会(SSEAYP AA, Inc.-Philippines)の全面的な協力を得て、フィリピンスタディツアーを行いました。

★★★ SSEAYP Internationalでは、様々な共通活動を行っています。★★★

平成6年 アジアのこども絵画展

平成11年 フォト・エキジビット

アジアの時代をアジアに生きる

福岡県立三池高等学校2年

安達 真実

「これからはアジアの時代だ」というフレーズを耳にする時、日本人の多くが「追い越される」という様な被害者意識を持っているのではないだろうか。これは正しく、日本もアジアの一部であるという意識の欠落を示す実状である。今アジアが注目されているのは、アジア諸国の中にめざましい経済成長が見られるからであるが、実際、日本はそのアジア経済の4分の3を占める圧倒的大国なのである。世界の注目を浴びるリーダーとして、他の国々の手を取り堂々と21世紀を生きるために日本はどうであるべきか。

第二次世界大戦を境に、日本も含めた先進国の

植民地支配が終わって、アジアの国は独立国として新たな国家建設に踏み出した。これらの国が60年代以降、本格的工業化に乗り出していく時にお手本となったのが、高度経済成長を果たした日本だ。それだけではなく、東南アジア各国には工業化のために先進国の資本と技術を導入する必要がある、彼らにとって最も平等な立場で受け入れられる外国資本として日本資本があった。当時、貿易黒字国となり、円高、対米貿易摩擦などの問題に直面していた日本も、生産の国際化を必要とされていたことから、お互いの利益が一致し、日本は東南アジア諸国に積極的な投資、進出を行って

いった。こうして、アジア各国の経済発展の基礎が準備され、80年代、“四匹の龍”と呼ばれたシンガポール、香港、台湾、韓国（NIES）の発展、78年から始まった中国の経済改革・対外開放策の導入、さらにはASEAN諸国の成長などが生まれていった。

こうして日本をお手本に始まったアジア諸国の経済的発展はめざましく、日本はいつまでも「圧倒的大国」でいられるわけではないという危機感を抱き始めた。先に述べた「追い越される」という被害者意識につながる感情である。しかし日本は間違いなく、アジアのどの国よりも早くめざましい高度経済成長を成し遂げた国である。今その日本が果たすべき役割は非常に大きい。

例えば、日本にとっても、今後の展開が特に気になる国として巨大な隣国中国がある。中国はここ何年か、10パーセントを超える経済成長を続けてきたが、そのひずみも問題となりつつある。国営企業改革も難航しているし、経済成長至上主義が先行し過ぎて、公害、自然環境破壊などが深刻化している。また、内陸部と沿海部との経済格差も社会問題化している。これらの課題の中には、日本が協力できる問題も少なくない。実際、内陸部の砂漠化防止や、寒冷地稲作技術移転など、様々な協力活動がすでに進められている。しかし、こうした交流活動が、必ずしも国家レベルの交流に寄与していない現状がある。経済成長を果たした先国として後輩国の行き当たりそうな問題を回避させたり、行き当たった問題の解決に手を貸す国家レベルでの活動は重要だ。自分たちの更なる経済成長に目がくらみ、後輩国の面倒も見られないようではアジアのリーダーとは言えないのではな

いだろうか。

ASEAN諸国に対しても日本は大きな役割をもっている。ASEANが生まれた理由の一つに、お互いに抱えている領土、少数民族問題などを、大国の干渉や軍事的手段を排除し、時間をかけて解決していこうという共通の意識もあった。お互いに孤立せず、協調できる枠組みを大切にしながら解決していこうとするASEAN諸国の姿勢は、今後の国際関係のシステム構築の大きなヒントにもなるだろう。しかし、その成否は日本にかかる部分が多いのである。日本とアジア諸国の間には非常に強い相互依存関係ができ上がっているが、事実日本ではアジア経済の4分の3を占める経済大国なのだから、日本がASEANを始めアジアの国々との関係を深め、強めて、平等な関係を保持していけば、まったく新しいアジアの歴史が作られるのである。そうなれば日本と他のアジアの国々との関係は安定し、平和で、経済的利益を得られる。

自分がアジアの一員であることも忘れずに、日本人がやることをアジアの人たちがやって何の不思議もないのだから、もっと落ち着いてリーダーシップをとればよいのだと思う。アジアという枠の中での調和、共存などの人類にとって普遍的な価値観を世界に伝えていくことができれば、それが日本の最もなすべき大きな役割であると思う。そして私達若者の偏見がないという良さを持って、もっとアジアの人達と交流できたら、これもまた私達若者がなすことのできる大きな役割であると思う。「これからはアジアの時代だ」というフレーズに希望の光を感じられる私でありたい。アジアの時代をアジアに生きられることに胸一杯の喜びを感じていたい。

21世紀のアジアのリーダーシップ

— 共に生きる地球市民として —

山口県立大学国際文化学部4年

采野 恵

21世紀はアジアの時代であると言われている。アジアは人口の面から見ても、35億という最大の地域であり、世界人口の約60%を占めている。それに加えて、近年の目覚ましいアジアの経済発展はそれらを予感させる。しかし、その裏には開発による人権侵害、環境破壊など問題が次々に出てきている。これらの問題は、決して開発途上国の問題だけでなく、先進国、特に私たちの住む日本とつながっている。つまり南北問題である。この南北問題（経済的構造）を是正していかなければ、本当の発展とは言えないのではないだろうか。

そこで、これから21世紀を迎える私たちは、アジアでの南北問題、またその上で生まれる様々な地球規模の課題を地球市民として共に考え、行動していく必要がある。自分の体験をもとに、共に生きるアジア人、地球市民としてどのようなことができるのか青年の可能性を考えていきたいと思う。

九州アジア大学に参加して

1997年12月に通称“地球温暖化防止京都会議”が日本が議長国となって開催された。ここでは各国の地球温室効果ガスの削減案が主な会議の内容であった。私がここで注目したのは、環境破壊は誰の責任かという議論で、途上国側と先進国側との間で意見が真っ二つに分かれたことだ。同年8月に北九州であった“九州アジア大学”というプ

ログラムに参加し、分科会で自然と人間の共生について、日本人とアジアからの留学生合わせて約20名でディスカッションしたときに同じような経験をしたことがあった。環境問題について多くの日本人は、「両者が悪い」「受入れ側の途上国にも責任がある」という意見であった。途上国出身の学生は、「先進国が悪い」と主張した。そして議論が難航するにつれて日本人の学生から、「責任論は意味がない」との意見が出たところ、途上国出身の留学生は、「責任は先進国にある。どちらに責任があるのかの議論は大切だ。これをはっきりさせないといつまで経っても状況は変わらない。」と反論した。

また、途上国の政府が、「経済発展して何が悪い。先進国もそうしてきて今の生活があるのではないか。」と言われると私自身も口篋ってしまう。経済が発展して豊かになることがまず先、環境問題はその後、と主張する。が私は先進国で生まれ、育ったから言えるのかもしれないが言いたい。「経済的な豊かさが本当の豊かさではない」と。

この議論において、結論と言うものは出なかったが最後にみんなの意見として「一人ひとりの意識改革が大切」ということになった。途上国においても、政府の人と一般の人との意見の間には溝があるが、これも個の意識改革からお互いのことを知る事から始めることにより、溝も埋まってい

くのではないのだろうか。

そのような意識改革という点においては、私たち青年の可能性は無限である。正面から議論し合い、はっきり自己主張をする勇氣がある。そして、相手の意見にも耳を傾けるという柔軟さが私たち青年の若さの強みでもある。また、これでよいのか、真実か、と常に模索していく力も持っている。地球市民と言うと何か巨大なものを感じそうであるが、実は私たち一人ひとりの意識から生まれてくる（作り出せる）ものなのだ。

そのために、私たちは、まず知ること、伝えることなど、できることから始めることが大切である。その上で、様々な問題の解決につながるような行動をとることや、行動一つひとつがアジアのみならず、世界みんなの生活にかかっていることを認識しなければならない。知ることから始め、困ったときに助け合える“友達”を作りたいと思う。そのためにはアジア（他国）と日本（自国）

を知る機会が必要である。

21世紀のアジアのリーダーは誰で、どのようなものなのか。それはアジアの人々一人ひとりである。この一人ひとりの行動が、新しい秩序を作り上げているのである。だからこそ、私たち自身の意識改革が非常に重要になってくる。私たち日本人としてできることは、現在の世界経済構造の中で、開発途上国という地域を生み出していることである。また、その根本は何か常に真実を見つめ、日本とアジアとのつながりを考え、共に生きていく地球市民として行動していくことである。アジアのリーダーシップとは地球市民としての自覚を持ち、共に考え、自分の足元から何か一つ行動していく努力をする人々のことを意味し、自分自身も、真の地球市民になれるよう何か一つ行動していきたいと思う。

このようなネットワークがアジア全体でできたとき、本当のアジアの姿が見えてくるにちがいない。



▲ Ms. Jackie Ejercito (社会貢献団体 KAME 会長、エストラダ大統領ご息女) を表敬訪問するエッセイコンテスト優勝者 (マラカニアン宮殿)

「日本青年国際交流機構平成12年度事務局長研修」日程

〔6月3日（土）〕

- ①開会式
 - ・会長あいさつ
 - ・PCプレゼンテーション（総務庁事業の歴史）
 - ・オリエンテーション
- ②国際交流活動の社会的意義（地域協力の観点から）
 - ・森田副会長／焼野副会長／小塚副会長
中野幹事／雨宮近畿ブロック幹事／大橋事務局長
- ③事業応募者への手引き（人材発掘、試験指導等）
～チェック・イン／夕食～
- ④事例発表〔滋賀県青年国際交流機構
島根県国際交流青友会
山口県青年国際交流機構〕
- ⑤懇親会

〔6月4日（日）〕

- ～朝食／チェック・アウト～
- ⑥オリエンテーションの進め方
 - ・外国青年に対して必要な説明事項や分かりやすくするにはどのようにすべきか
 - ・ホームステイ受入れ家庭に対しての注意点、アドバイス
 - ⑦分科会（昼食挟んで午前・午後）
 - A. 外国青年受入れを行うためには
 - B. 自主事業を実施するには
 - C. 事務局体制作りのためには
 - ⑧評価会／閉会式
 - ・アンケート記入
 - ・意見発表

6月3日～4日にかけて開催された平成12年度事務局長研修は、33道府県より53名の参加者を迎え、本部役員、実行委員を合わせて80名を超える数となり、盛況のうちに開催されました。講師となる本部役員およびセンター職員の協力のもと、若手を中心に構成された実行委員は準備を進めて当日に備えました。今回の研修の特徴としては、分科会として各IYEOのニーズに合わせた三つのテーマを選択できるようにし、それらに沿った事例研究や実践的な事務処理方法を学び、研修後に具体的な行動を起こせるような構成としたことが挙げられます。

参加者の半数以上は過去1、2年の事業参加者ではありませんでしたが、多くの方は目的意識を持って研修に臨んでいたようです。全体会における講義・意見交換や活動事例発表、各コースでのワークショップを通して、参加者は今後の活動に役立つ知識を得たと共に、参加者同士のネットワークを構築することで活動の幅を広げる土台を築くことができました。

参加者アンケートからも、この研修が非常に有意義であったとの評価を受けました。その反面、参加者間に経験の差があった、参加者同士の交流時間を増やして欲しいとの意見も寄せられました。これらの意見は次回の研修への糧とし、より良い研修作りに努めたいと思っています。

各都道府県会長の皆様におかれましては、詳しい報告を受けると共に、参加者の研修成果が活動の中で十分に発揮できますようご指導いただければ幸いです。
(実行委員 酒井 昇)

日本青年国際交流機構都道府県会長一覧

(平成12年6月30日)

都道府県名	団体名称	会長氏名	〒	住 所	電話番号
北海道	北海道青年国際交流機構	富 樫 泰 介	064-0808	札幌市中央区南8条西7丁目506	011-511-2766
青 森	青森県青年国際交流機構	奥 谷 史 人	039-0612	三戸郡名川町大字剣吉字伊勢沢52-1	0178-75-1594
岩 手	岩手県青年国際交流機構	小 川 太 一	020-0585	岩手郡雫石町長山6-207-2	019-693-4328
宮 城	宮城青年国際交流機構	及 川 留 太郎	987-1304	志田郡松山町千石字松山482	0229-55-4181
秋 田	秋 田 県 青 友 会	浅 野 英 樹	010-0952	秋田市山王新町6-4	0188-64-5524
山 形	山形県青年国際交流機構	佐 藤 恵 一	992-0037	米沢市本町1-2-3	0238-24-6937
福 島	船と翼の会ふくしま	岩 橋 香 代子	969-6186	北会津郡北会津村大字古館乙204	0242-56-3585
茨 城	茨城県青年国際交流機構	渡 辺 英 明	308-0000	下館市小林124	0296-24-4143
栃 木	栃木県青年国際交流機構	手 塚 美 保子	329-1300	塩谷郡氏家町大字氏家2444	0286-82-2303
群 馬	群 馬 青 友 会	小 川 弘 和	370-0862	高崎市片岡町3-8-15	027-323-4079
埼 玉	埼玉県青年国際交流機構	関 根 廣 次	356-0045	入間郡大井町鶴ヶ岡2-1-23-105	0492-61-7392
千 葉	千葉県青年国際交流機構	野 村 隆 紹	277-0055	柏市光ヶ丘2-1-1	0471-73-3142
東 京	東京都青年国際交流機構	高 田 健 二	130-0011	墨田区石原1-30-6-802	03-3829-1847
神 奈 川	神奈川県青年国際交流機構	篠 崎 浩 子	221-0802	横浜市神奈川区六角橋6-25-4	045-491-6946
山 梨	山梨県青年国際交流機構	樋 川 綾	406-0012	東山梨郡春日居町熊野堂27	0553-26-2824
新 潟	新潟県青年国際交流機構	長谷川 吉 仁	940-2157	長岡市大積三島谷町581	0258-47-0621
富 山	富山県青年国際交流機構	杉 木 芳 文	939-0561	富山市水橋石割54	0764-78-0525
石 川	石川県青年国際交流機構	宮 本 剛	921-8806	石川郡野々市町稲荷2-26	0762-46-6835
福 井	福 井 県 青 友 会	斎 藤 清 一郎	911-0832	勝山市遅羽町逢生16-5	0779-88-1228
長 野	長野県青年国際交流機構	樋 口 敦 子	381-2224	長野市川中島町原101	026-292-7842
岐 阜	岐阜県青年国際交流機構	堀 場 巖	501-6016	羽島郡岐南町徳田1-250	058-272-6995
静 岡	静岡県青年国際交流機構	本 波 稔 久	422-8021	静岡市小鹿474-3 マンションハセガワ307	070-6637-7026
愛 知	愛知県青年国際交流機構	毛 受 芳 高	465-0094	名古屋市名東区龜の井1-51-205	052-702-6654
三 重	三重県青年国際交流機構	喜 多 洋 輔	514-0102	津市栗真町屋町535-205号	059-231-2113
滋 賀	滋賀県青年国際交流機構	富 永 千 鶴	525-0072	草津市笠山8丁目4-91-121	077-567-3876
京 都	京都府青年国際交流機構	南 明 男	610-0313	京田辺市三山木高飛34	0774-62-0225
大 阪	大阪府青年国際交流機構	松 本 仁 孝	540-0017	大阪市中央区松屋町住吉5番8号	06-6761-3256
兵 庫	兵庫県青年国際交流機構	上 脇 義 生	655-0004	神戸市垂水区学が丘3-4-1-807	078-783-3321
奈 良	奈良県青年国際交流機構	吉 岡 克 也	631-0041	奈良市学園大和町5-730-733	0742-45-7917
和 歌 山	海 友 会	橋 本 雅 史	641-0013	和歌山市内原941-14-201	0734-46-5689
鳥 取	とっとり青友会	河 崎 忠 義	689-0217	気高郡気高町酒津650番地	0857-82-0430
島 根	島根県国際交流青友会	手 銭 長 光	699-0751	松江市学園南1丁目2番1号 くにびきメッセ2階 (しまね国際センター内(事務局))	0852-31-5056
岡 山	岡山青年国際交流会	村 木 実由紀	700-0026	岡山市奉還町2-7-1	086-253-0110
広 島	広島県青年国際交流機構	落 田 正 弘	729-6201	三次市和知町1512	0824-66-2682
山 口	山口県青年国際交流機構	宗 廣 宜 之	742-0031	柳井市南町1丁目7-5-303	0820-23-3090
徳 島	徳島県青年国際交流機構	木 藤 一 人	770-8074	徳島市下福万187-105	088-668-1771
香 川	香川県青年国際交流機構	島 田 和 則	767-0021	三豊郡高瀬町佐股811-8	0875-74-6601
愛 媛	愛媛県青年国際交流機構	田 中 千 代	791-8025	松山市衣山5丁目1-50	089-923-0267
高 知	高知県青年国際交流機構	松 茂 晶 子	780-8085	高知市大谷公園町3-10	088-843-2946
福 岡	福岡県青年国際交流機構	藤 永 郁 智	811-1356	福岡市南区花畑3丁目40番24-205号	092-566-0670
佐 賀	佐賀県青年国際交流機構	下 村 敏 明	845-0022	小城郡三日月町久米1816-3	0952-72-2218
長 崎	長崎県青年国際交流機構	末 永 透	859-2304	南高来郡北有馬町丁397	0957-84-2783
熊 本	熊本県青年国際交流機構	武 元 典 雅	861-3906	阿蘇郡蘇陽町神ノ前242-15	0967-83-0505
大 分	大分県青年国際交流機構	安 東 敏 眞	870-1152	大分市大字上宗方1052-8	0975-41-0633
宮 崎	宮崎県青年国際交流機構	上 杉 聖 次	889-0505	延岡市北一ヶ岡2丁目6-6	0982-37-0690
鹿 児 島	鹿児島県青年国際交流機構	吉 村 正 人	899-6201	始良郡栗野町木場89-1 丸池タウン栗棟301	0995-74-2903
沖 縄	沖縄県青年国際交流機構	棚 原 弘 一	901-0156	那覇市田原4-5-16	098-859-3872

平成 12 年度ブロック大会について

平成 12 年度 IYEO ブロック大会はそれぞれの担当道府県組織が準備を開催に向けて準備を進めています。所属ブロックに限らず、幅広い参加をお待ちしております。

(各ブロック大会日程については Bulletin Board に掲載しています。)

<北海道・東北ブロック大会>

今年のブロック大会は初秋の北海道、小樽にて開催です！国際理解のフォーラムや分科会を開催し、終了後小樽の奥座敷朝里川温泉にて懇親会を行いたいと思います。秋の小樽観光を兼ねて参加しませんか？多数の皆様のご参加をお待ちしております。(国際交流に関心のある方でしたらどなたでも参加 OK です。)

◆ 開催場所

簡易保険加入者ホーム小樽 (〒047-0192 北海道小樽市朝里川温泉 2-670 Tel:0134-54-8511)

◆ スケジュール

9月15日(祝)：(14:30 受付開始)

15:15 開会式 ～ 多文化共生フォーラム(仮)～ 分科会 ～ 懇親会

9月16日(土)

帰国報告会 ～ 閉会式(10:45 閉会予定) *解散後、希望者はオプションツアーに参加

◆ 参加費用

全参加 9,000円 / 日帰り(フォーラムと懇親会)4,000円 / 日帰り(フォーラムのみ) 無料

◆ 申込先および振込先

〒004-0865 札幌市清田区北野5条4丁目15-3 上森 奈穂美

Tel/Fax 011-881-8340 E-mail Naomi-Uemori@msn.com

郵便振替口座 02750-7-2117 加入者名 北海道青年国際交流機構

*参加希望者は参加申込書を下記まで郵送、もしくはFAXすると同時に費用を振り込んで下さい。

メ切は8月10日(木)です。

<九州ブロック大会>

今年の九州ブロック福岡大会は、広く地域社会に開かれたものにするを旨とし、「原点・地域・交流・アジア」のキーワードを掲げています。例年の旧友を温め合う同窓会的な場に加え、参加者一人一人が意見を述べ、考える機会を持ち、今後の活動へと躍進することを期待しています。また、この大会はIYEO会員のみならず、一般参加者に広く事業を知っていただき、新しい風が吹きこむきっかけを作る場でもあります。

◆ 開催場所

アクロス福岡 1階円形ホール (〒福岡県福岡市天神 1-1-1 Tel:092-725-9111)

◆ スケジュール

9月16日(土)：(13:00 受付開始)

14:30 開会式 ～ 記念講演～ パネルディスカッション ～ 懇親会

9月17日(日)

各県、団体活動発表 ～ 閉会式(12:00 閉会予定) *解散後、希望者はオプションツアーに参加

◆ 問い合わせ先

実行委員長：島 祐次郎

Tel/Fax：092-661-4509

E-mail：yujiros@wonder.ocn.ne.jp

「IYEOリフレッシュクルーズ」第2次募集 !!

かねてより多くの会員から「にっぽん丸」での船旅へのご希望をいただいていたのですが、この度日本青年国際交流機構では、皆様のリクエストにお応えして「IYEOリフレッシュクルーズ」を再開し、以下の日程で自主クルーズを行うことにしました。

同窓会を船で行いたい回生、家族や友人の方に船旅を満喫させて上げたい皆さんは、是非ともこの機会をご活用下さい。夏の週末という最高の条件です。皆様の参加をお待ちしています。

日 程：平成12年9月1日（金）19：30～9月3日（日）10：00 東京港着

参加費：1室3名ステートルーム使用 39,000円

1室2名ステートルーム使用 49,000円

募集人員：350名（最少催行人員 250名）

*旅行代金に含まれるもの：船賃、全食事代、船内宿泊代、船内イベント費用

旅行代金に含まれないもの：乗船港まで及び下船港からの交通費、船内での個人的諸費用

締 切 日：平成12年7月31日（月）

申込み方法：下欄の参加申込書に記入の上、次の申込先までご郵送下さい。参加概要、参加費振込先及び申込確認書等をお送りします。申込書は一人で1枚ずつご使用下さい。

〔申込み及び 問い合わせ〕 〒102-8552 東京都千代田区紀尾井町3-6 秀和紀尾井町パークビル5F

商船三井客船 IYEOクルーズ係〔TEL. 03-5211-5129〕

キ リ ト リ 線

IYEOクルーズ 参加申込書（お申込み日／ 年 月 日）

予 約 内 容	部屋タイプ〔2人部屋・3人部屋〕 料金〔一人：¥ 〕		生年 月日	明・大・昭・平 (才)	年 月 日
名 前	フリガナ	同室 希望者			
	1. MR 2. MRS 3. MISS				
住 所	〒□□□□-□□□□ フリガナ		〔TEL: - - 〕		
区 分 〔該当項目に○印をつけて下さい〕	会 員	参加事業名／航空機派遣 〔参加年又は参加回数は参加回数を記入〕	青年の船 東ア船 世界船	年 回 回 回	団長・副団長・渉外・団員 管理部・班長・渉外・団員 管理部・NL・参加青年 管理部・NL・参加青年
	一 般	紹介者名〔 〕			

船上パーティー開催のお知らせ



第13回「世界青年の船」出航に合わせて、恒例のSWY船上リユニオンを中心とした船上パーティーを開催します。参加事業にこだわらず、一般の方々も含めて多くの方の参加をお待ちしています。詳細は後日IYEOホームページやメールリスト等でお知らせいたします。

開催日時：平成12年9月3日（日）
17:00～20:30 予定

開催場所：晴海埠頭につぼん丸船上

内容（予定）：ティーサービス
ビデオ上映
ディナーパーティー

東京会議招へい国（予定）

インド、スリ・ランカ、エジプト、ケニア
南アフリカ共和国、タンザニア、ベルギー
ギリシャ、スウェーデン、イギリス、
バハレーン、アラブ首長国連邦

（東京会議招へい外国青年歓迎レセプション含む）

申し込みのお問い合わせ先：日本青年国際交流機構事務局 リユニオン係

Tel：03-3249-0767 **Fax**：03-3639-2436 **E-mail**: hq@iyeo.or.jp

編集後記

いよいよ交流の季節到来。7月から12月までノンストップ状態が始まりますが、全国の皆さん受入れをよろしくお願ひします。「国際青年育成

交流」「世界青年の船」「アジア太平洋青年招へい」「日韓青年親善交流」「日中青年親善交流」「東南アジア青年の船」の6事業です！

*本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 7月号 Vol.35 2000年7月1日発行 (隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.iyeo.or.jp>

編集協力：総務庁青少年対策本部

日本青年国際交流機構

定価：198円 (本体189円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960



平成12年度IYEO全国大会富山大会

テーマ「こら～れ 富山へ! きときとの21世紀へ・・・」

開催日程: 平成12年11月18日(土)、19日(日)

会場: 富山観光ホテル

<主な内容>

- ・講演「創造的問題解決の手法」 講師 富山国際大学教授 永田 円了 氏
- ・分科会
 - 富山在住外国人の方々を囲んでの座談会
 - ホームステイを楽しくするためには?
 - 国際理解教育について ～とよまから世界を感じてみませんか?～
 - 環境について ～環境教育～
 - 在住外国人医療問題について ～自分の町でできる国際ボランティア～
 - 「越中おわら」を踊ろう
 - 郷土とよま土人形絵付け
- ・懇親会
- ・総務庁事業の歴史(PCプレゼンテーション)
- ・会務報告
- ・帰国報告会

IYEO 富山によるホームページ公開中!
<http://homepage1.nifty.com/iyeo2000/>

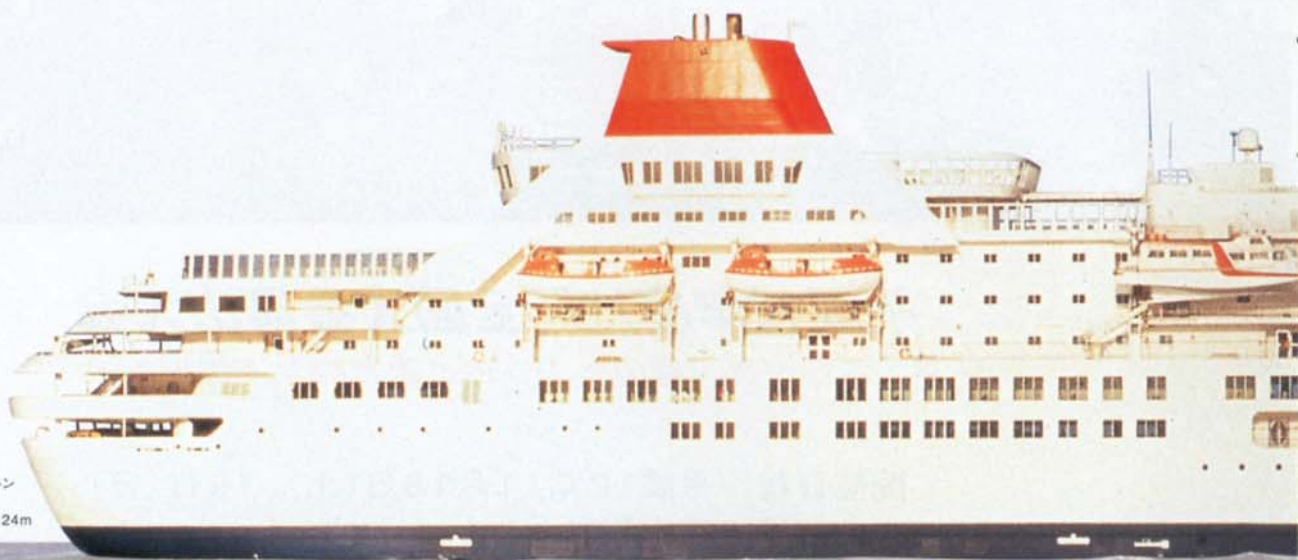
<オプションツアー>

1. 富山名産「ますのすし」体験教育&ランチ(定員 30名)
2. 富山市民俗民芸村と五百羅漢
3. 高熱隧道と黒四発電所見学(11/20(月)午後解散、定員20名)

※詳細は同封ブリテンボードを参照ください。

360° Relax

にっぽん丸・ふじ丸



ふじ丸 ● 総トン数:23,235トン
船客定員:600名
全長:167m/全幅:24m

感動航海クルーズラインアップ

2000.10~2001.3

2000年クリスマスワンナイトクルーズ

にっぽん丸 **サンタクルーズ日立** 日立発着
12月9日(土)~10日(日) 2日間 38,000円~144,000円
○食事:朝食1回、昼食1回、夕食1回

ふじ丸 **秋の八丈島と伊豆諸島周遊クルーズ**
神戸→八丈島→神戸 58,000円~278,000円
2000年10月16日(月)~18日(水) 3日間
○食事:朝食2回、昼食3回、夕食2回

にっぽん丸 **ニューイヤ-2001グアム・サイパンクルーズ**
東京→グアム→サイパン→東京 298,000円~1,120,000円
2000年12月26日(火)~2001年1月3日(水) 9日間
○食事:朝食8回、昼食8回、夕食8回

にっぽん丸 **サンタクルーズ清水** 清水発着
12月11日(月)~12日(火) 2日間 30,000円~120,000円
○食事:朝食1回、夕食1回

にっぽん丸 **サンタクルーズ名古屋** 名古屋発着
12月19日(火)~20日(水) 2日間 30,000円~120,000円
○食事:朝食1回、夕食1回

ふじ丸 **日本一周メモリアルクルーズ**
東京→函館→秋田→富山新港
→唐津→新宮→東京 262,000円~1,280,000円
2000年10月27日(金)~11月5日(日) 10日間
○食事:朝食9回、昼食8回、夕食9回
※区間乗船コースもございます。詳しくは、お問い合わせください。

にっぽん丸 **新春の南西諸島クルーズ**
仙台→東京→石垣→慶良間
→古仁屋→東京 228,000円~888,000円
2001年1月13日(土)~21日(日) 9日間
○食事:朝食8回、昼食8回、夕食8回
※区間乗船コースもございます。詳しくは、お問い合わせください。



運輸大臣登録旅行業第946号 ©(株)日本旅行業協会正会員・県コンド協賛会員

主催



商船三井客船

〒102-8552 東京都千代田区紀尾井町3の6 秀和紀尾井町パークビル5階

◎旅行業務取扱主任者/内山 勝美 ◎<http://www.mopas.co.jp>

もつと自由に、
ずつと素敵に。

広い空と青い海に囲まれて
悠久の時を過ごす。

波に誘われるまま旅立つ、
くつろぎと自由の航海。

そこには、あなただけの
特別な時間が待っています。



にっぽん丸 サンタクルーズ横須賀/横浜 横須賀発・横浜着

12月21日(木)~22日(金) 2日間 30,000円~120,000円 ○食事:朝食1回、夕食1回

にっぽん丸 サンタクルーズ東京A 東京発着

12月22日(金)~23日(土) 2日間 34,000円~130,000円 ○食事:朝食1回、夕食1回

にっぽん丸 サンタクルーズ東京B 東京発着

12月23日(土)~24日(日) 2日間 42,000円~140,000円 ○食事:朝食1回、昼食1回、夕食1回

ふじ丸 サンタクルーズ瀬戸内周遊 神戸発着

12月22日(金)~24日(日) 3日間 58,000円~278,000円 ○食事:朝食2回、昼食2回、夕食2回

※上記の旅行代金は、にっぽん丸のグループ3・スタンダード3(3名1室)および、ふじ丸のグループ4(4名1室)から、スイートルーム(2名1室)までの大人お一人様(消費税込)の代金です。

ふじ丸 秋の小豆島と世界遺産の姫路城クルーズ

東京→小豆島→飾磨→東京 118,000円~498,000円
2000年11月15日(水)~19日(日) 5日間 ○食事:朝食4回、昼食4回、夕食4回

ふじ丸 秋の南九州クルーズ

名古屋→志布志(鹿児島)→名古屋 78,000円~398,000円
2000年11月23日(木)~26日(日) 4日間 ○食事:朝食3回、昼食4回、夕食3回

ふじ丸 にっぽん丸 小笠原スプリングクルーズ

神戸→二見(小笠原・父島)→神戸 134,000円~578,000円
2001年3月 8日(木)~13日(火) 6日間(ふじ丸) ○食事:朝食5回、昼食4回、夕食5回
東京→二見(小笠原・父島)→東京
2001年3月14日(水)~19日(月) 6日間(にっぽん丸) ○食事:朝食5回、昼食4回、夕食5回

ふじ丸 鳥島周遊アホウドリ・ウォッチングクルーズ

横浜→(鳥島周遊)→横浜 52,000円~252,000円
2001年3月23日(金)~25日(日) 3日間 ○食事:朝食2回、昼食2回、夕食2回

※上記の旅行代金は、ふじ丸のグループ4(4名1室)および、にっぽん丸のグループ3(3名1室)から、スイートルーム(2名1室)までの大人お一人様の代金です。*グアム・サイパンクルーズを除く代金は消費税を含みます。*オプションツアー(別途料金)もご用意いたします。但し、鳥島周遊アホウドリ・ウォッチングクルーズは除く。

お問い合わせ・お申し込みは、お近くの旅行会社または、商船三井客船クルーズデスクまで。

クルーズデスク (フリーダイヤル) **0120-791-211** チャータークルーズのお問い合わせは **03-5211-5221**

※最少催行人員2名。*全日程船中泊。
*添乗員は同行しません。*現地及び船内係員がお世話いたします。
*お問い合わせの時点で、すでに満席となっている客室タイプもございますので予めご承知をお願いします。

旅は暮らしの句読点。

ふと、気づくとずいぶん自分を振り返っていない。ここらでちよつと、ひと息入れて。うれしいことがあった時、何かを成し遂げた時、人との密度を深めたい時…。

旅する理由はいろいろありますが、日々の暮らしの中で、少しだけ立ち止まって、自分自身を見つめ直す機会があってもいいのではないのでしょうか。

私たち東急観光は、信頼され、安心いただける旅のプロフェッショナルとして、お客様の立場になって、ご相談をお受けいたします。さあ、気分を変えて、旅にでましょう。



TOYOKU TOURIST 豊かな感動のステージへ

東急観光

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号